

## 国際芸術祭「あいち」 地域展開事業

やきもののまち、瀬戸で現代美術展を開催！

国際芸術祭「あいち」地域展開事業  
「底に触れる 現代美術 in 瀬戸」

来年9月から開催する国際芸術祭「あいち 2025」のプレ事業として、現代美術への関心を高めていただくとともに、芸術祭の開催機運を醸成するため、国際芸術祭「あいち」地域展開事業「底に触れる 現代美術 in 瀬戸」を開催します。

会場は、国際芸術祭「あいち 2025」の会場の一つである瀬戸市のまちなかです。瀬戸市は国内屈指のやきものの産地として知られ、古くから日本の陶磁文化において重要な役割を担ってきました。伝統を受け継ぐまちの様々な場所で、現代美術展、ワークショップ等の関連プログラムを実施します。なお、各プログラムの詳細については後日お知らせします。



瀬戸市新世紀工芸館



古民家レンタルスペース梅村商店



瀬戸信用金庫アートギャラリー

### 【事業概要】

- テーマ 「底に触れる 現代美術 in 瀬戸」
- 会期 2024年10月12日（土）～11月4日（月・振替休日）
- 会場 名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅周辺のまちなか（50音順）  
（旧小川陶器店、古民家レンタルスペース梅村商店、瀬戸市新世紀工芸館、  
瀬戸信用金庫アートギャラリー、ポップアップショップ、松千代館、無風庵）
- 観覧料 無料
- 主催 国際芸術祭「あいち」地域展開事業実行委員会、瀬戸市
- 助成 文化庁、一般財団法人地域創造
- 公式サイト <https://aichitriennale.jp/aichi-art/>

**【テーマについて】**

本展では、触れたり覗き込んだりしなければ見えてこないものをうつわや壺の「底」になぞらえて、現代アートを紹介します。

たとえば茶碗を口に近づけるといふ行為のなかで、わたしたちはあまり意識せずうつわの底に触れています。普段と異なる茶碗を使えば、その手ざわりを通して底の存在が強く意識されるかもしれません。一方で、たとえば「壺中之天」といふ故事のように、暗い壺の内側は覗き込んでみてもなかなか底が見えず、その先には別の世界が広がっているかもしれません。

ときに作品を通じてわたしたちが普段目を向けていないものごとくに気づかせたり、ものごとの奥底に潜んでいるものに触れさせたりする、アーティストたちのさまざまな「底」に触れる実践を御覧ください。

**【参加アーティスト】(50音順)**

いむらかずと うえむらひろき きそこうた ごとう たぐちかおる つのせいらん はたこしあやか ふじた  
井村一登、植村宏木、木曾浩太、後藤あこ、田口薫、津野青嵐、波多腰彩花、藤田クレア、  
ユダ・クスマ・プテラ、みつおかこういち光岡幸一

※過去作品については次頁の一覧を御参照ください。

**国際芸術祭「あいち」地域展開事業とは**

国際芸術祭開催年度以外の中間年において、県内市町村を会場に開催される現代美術展です。子どもを始め多くの県民の方々が文化芸術に触れる機会を提供し、愛知県における文化芸術の裾野を広げるとともに、次代を担う若手芸術家の発掘・育成を行います。

**国際芸術祭「あいち」とは**

2010年から3年ごとに開催される、国内最大規模の国際芸術祭です。国内外から多数のアーティストが参加し、現代美術を基軸にパフォーマンス、ラーニング・プログラムなど、ジャンルを横断し、アートの多様性を発信します。

**取材・掲載に関する問合せ先**


国際芸術祭「あいち」地域展開事業実行委員会 広報担当  
電話：052-971-6182（直通）FAX：052-971-6115  
Email：press@aichitriennale.jp

**事業に関する問合せ先**

国際芸術祭「あいち」地域展開事業実行委員会 事業担当  
電話：052-971-0622（直通）

参加アーティスト 過去作品一覧

( )内は生年、出身地

 <p>井村一登 (1990、京都府)</p> <p>《loose reflection 15.75ct》 2023年 黒曜石</p> <p>撮影：木奥恵三</p>	 <p>植村宏木 (1990、北海道)</p> <p>《うつらふもの》 2019年 ガラス・竹生島の空気 花崗岩・木綿糸</p>
 <p>木曾浩太 (1985、愛知県)</p> <p>《プリンプリンマンの肖像》 2021年 岩絵具、紙</p>	 <p>後藤あこ (1989、愛知県)</p> <p>《知らない方角》 2022年 陶・木材・鏡</p> <p>撮影：城戸保</p>
 <p>田口薫 (1995、愛知県)</p> <p>《東亜の聖母》 2021年 アクリル、板</p>	 <p>津野青嵐 (1990、長野県)</p> <p>《ねんねんさいさい》 2023年 布、PLA</p> <p>撮影：津野青嵐</p>
 <p>波多腰彩花 (1991、山口県)</p> <p>《Fragments of Daily》 2023年 陶</p>	 <p>藤田クレア (1991、北京、中国)</p> <p>《Invisible soundscape ~version 1: (1 + √5)/2+x~》 2020年 ミクストメディア</p> <p>撮影：加藤健</p>
 <p>ユダ・クスマ・プテラ (1987、ジョグジャカルタ、インドネシア)</p> <p>《Past, Present, Future Come Together _Ina Bandis and Lady Family》 2017年 デジタルプリント、紙</p>	 <p>光岡幸一 (1990、愛知県)</p> <p>《ぶっちぎりのゼッター120%》 2023年 ミクストメディア</p> <p>撮影：黒田菜月</p>